

愛媛日産の取り組みが、愛媛の未来を共創・創造するプロジェクト「itv Blue シリーズ」で EV の新たな価値創出モデルとして紹介されました。本取り組みは、中古 EV の「不安」を解消し、資源循環まで見据えた先進的な活動です。

中古 EV 市場では、バッテリー状態が分かりにくいことから購入に不安を感じる声が多くありました。そこで愛媛日産では、バッテリーの残容量や走行可能距離を数値化した「性能証明書」を導入。デジタル技術により状態を可視化し、お客様が安心・納得して選べる環境づくりを進めています。こうした可視化は中古 EV 市場の信頼性向上にもつながる重要な取り組みです。

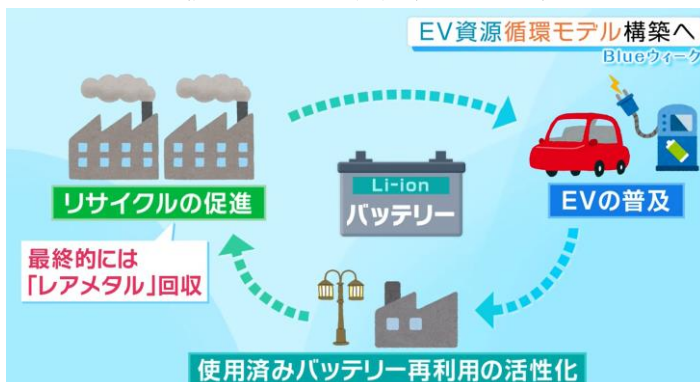


また、日本では中古 EV の多くが海外に流出してしまう課題があり、資源の国内循環という観点でも問題視されています。

この課題に対し、愛媛では「EV サーキュラーエコノミー推進協議会」を中心に、EV の普及からバッテリーの再利用・リサイクルまでを一体化した循環モデルの構築を推進。県内企業が連携し、地域完結型の取り組みとして進められています。

EV バッテリーは車としての役目を終えた後も、蓄電池として再利用が可能であり、さらに最終的にはニッケルやコバルトなどのレアメタルを回収し再資源化することができます。こうした循環により、資源の有効活用と脱炭素社会の実現が期待されています。

愛媛日産は、EV を「使って終わり」ではなく「循環する資源」として捉え、中古 EV の価値向上と地域経済の活性化を両立する取り組みを今後も推進してまいります。



ニュース情報

<https://www.youtube.com/watch?v=RawdQSAuNNM&list=PL1BfdLKJEm7QeYKnE3HezRH6dgB1-0jcK&index=2>